

事業名	乳用牛改良推進事業費		
細事業名	乳用牛群検定推進事業費	財務コード	058202
担当部課室	農政 部 畜産 課 生産振興 担当 (内線)	5262	

事業の概要

実施期間	始期 S57 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	補助(山梨県乳用牛群検定組合)、県(委託)		
事業の目的	だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか
	乳用牛を飼養する農家(酪農家)	牛群検定に参加し、効率的かつ適正に乳用牛群の改良が進んでいる	県内乳用牛の能力向上及び酪農家の収益向上
事業の内容 主にH27年度	<p>[補助]</p> <p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳用牛群検定: 乳牛の資質向上と効率的な飼養を図るため、農家飼養の乳用雌牛群の総合的な能力検定を推進する。 乳用種雄牛後代検定: 優良乳用種雄牛を選抜するため、乳用牛群検定のデータを基にした、後代検定の実施を推進する。 <p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳用牛群検定: 雌牛の生産能力を、毎月生乳サンプルを採取し、検定の成績により評価する。 乳用種雄牛後代検定: 雄牛の遺伝能力を娘牛(後代)の検定の成績により評価する。 <p>補助先: 山梨県乳用牛群検定組合</p> <p>補助率</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳用牛群検定: 42.2/100 乳用種雄牛後代検定: 10/10 <p>[委託]</p> <p>目的: 乳用牛群検定により得られた情報を有効に活用するため、検定情報を分析し、農家指導を行う。</p> <p>委託先: 山梨県酪農業協同組合</p> <p>事業内容: 検定情報の分析及び酪農家指導</p>		
	根拠法令等	酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律、山梨県酪農・肉牛生産近代化計画書、家畜改良増殖法、家畜及び鶏の改良増殖計画、乳用牛群検定普及推進事業費補助金交付要綱	

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	26年度	27年度		28年度	29年度	事業目標の考え方	
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	検定農家戸数	15	13	13	13	14	目標設定の考え方 前年度実績値を参考に設定
	活動指標達成率 (実績値/目標値)		100.0 %				データの出典等 山梨県乳用牛群検定組合事業報告
成果指標	乳用牛1頭1日あたり 平均搾乳量	28.8	28.8	31.0	31.0	31.0	目標設定の考え方 前年度実績
	成果指標達成率 (実績値/目標値)		107.6 %				データの出典等 牛群検定成績表
決算額又は予算額 (千円) うち一財額	1,181 0		1,080 0	1,186 0	1,198 0	成果指標によらない成果	
所要時間(直接分)	84 時間		84 時間	81 時間	81 時間		
所要時間(間接分)	38 時間		38 時間	36 時間	36 時間		
所要時間計	122 時間		122 時間	117 時間	117 時間		
人件費コスト単位:千円 (@2,044円×所要時間)	249		249	239	239		

これまでの事業の見直し・改善状況

H18年度: 三位一体の構造改革に伴い、国庫補助金が廃止され県に税源移譲されたことにより、「乳用種雄牛後代検定推進事業費補助金」と「乳用牛群検定普及定着化事業費補助金」とを統合し、「乳用牛群検定普及推進事業費補助金」とした。

H20年度: 行政評価により、「乳用牛群検定普及推進事業費補助金」と「乳用牛群検定普及定着化事業(委託費)」は関連性が高いことから統合縮小し、「乳用牛群検定推進事業費」とした。

活動量と成果の判断(平成27年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか (「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)		
数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価が異なる場合等に記載すること
H27年度活動指標の達成率		
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上) b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満) c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)
d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2) 事業は意図した成果を上げているか (「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記載すること
H27年度成果指標の達成率		H27年度の乳牛1頭あたりの乳量は目標を達成している。また、検定対象となる牛の月齢構成により年によって多少の増減はあるものの、H18年(27.6kg/頭)と比較して増加傾向にあり、牛群検定参加農家の牛群の能力向上が図られて農家の経営改善に寄与しているため、意図した成果を上げている。しかし、検定加入農家の高齢化、廃業などの影響により、検定加入農家数が減少した。今後は検定加入農家の維持拡大が課題。
b	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上) b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満) c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満) d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

見直しの必要性(平成29年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)		
見直しの必要性	説明	以外の判断項目
無	乳用雌牛の遺伝的な能力向上と効率的な飼養管理を図るため、牛群検定により酪農家飼養の乳用雌牛群の能力検定を行い、評価を継続して実施していくことが必要である。 また、同時に後代検定による雄牛の改良を推進することで、雌雄両方からの乳用牛の能力向上が図られ、酪農家の経営向上につながることから、全国で取り組まれている事業であり、本県としても今後も継続的に取り組んでいく必要がある。 なお、本事業の取組により、昨年度実施された第14回全日本ホルスタイン共進会において、県内酪農家出品牛が体型、乳生産能力に優れた牛に送られるベストプロダクション賞を受賞しており、事業の成果が確実に上がっている。	

・「以外の判断項目」の欄
a: 目的の達成 b: 新たな課題への対応 c: 対象の変化 d: ニーズの変化 e: 法律・制度の改正 f: 民間等実施 g: 市町村等へ移管 h: 外部委託
i: 経費節減 j: 類似事業と統合・連携 k: 所要時間の縮減 l: プロセスの改善 m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説明	以外の判断項目
有	検定加入農家の飼養する乳用牛1頭当たりの乳量が順調に増加していることや、全日本共進会での受賞など、事業の成果は確実に上がっており、今後も継続して取り組んでいく必要がある。 しかし、近年検定加入農家数については横ばいであることから、事業の成果を多くの酪農家が享受し、本県酪農業の発展を図る必要があるため、検定加入農家数の増加を目標に取り組んでいく。 このため今後は、検定加入農家数の増加に向けた取り組み方法について検討していく。	m

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

見直しの方向(平成29年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等 「見直しの必要性」と「見直しの方向」が異なる場合は、その理由も記載すること
実施方法等の変更	検定加入農家戸数の目標設定の考え方を、現在の「前年度実績値を参考に設定」からアドバイザー会議での指摘を受け、最大16戸を目標として、検定加入農家戸数の増加に取り組んでいきたい。 具体的には年1戸増加を目標とし、事業実施主体や普及指導スタッフ・家畜保健衛生所と連携し、特に若手農家や後継者を有する未加入農家を対象として、巡回時の検定事業の紹介(チラシの配布等)や、6ヶ月間無料で検定が試せる「お試し検定(乳用牛群検定全国協議会事業)」を活用し、事業を推進していく。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止(施設については「譲渡」)」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、「見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること」
・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること

自主点検シート(事業の内容及び所要時間)に関する附属資料

様式2

所属名: 農政部畜産課

細事業名: 乳用牛群検定推進事業費

調書番号: 10

事業の内容を細分化した業務名	具体的な業務プロセス(手順)	業務の時期(フロー)	H27 所要時間 (h)	H28 所要時間 (h)A	H29 所要時間 (h)B	縮減等 B - A	具体的業務の見直しの内容	見直しに至った理由等 (又は見直しなしの理由等)
1 牛群検定	補助金交付業務(直接)	4月	23	22	22	0	なし	業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
	委託契約業務(直接)	4月	23	22	22	0	なし	業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
	会議出席(都内等)(直接)	9月	15	15	15	0	なし	業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
	打ち合わせ会議(間接)	毎月	17	16	16	0	なし	業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
	農家指導(間接)	年2回	15	14	14	0	なし	業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
(小計)			93	89	89	0		
2 後代検定	補助金交付業務(直接)	4月	23	22	22	0	なし	業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
	打ち合わせ会議(間接)	年2回	6	6	6	0	なし	業務に必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため。
						0		
						0		
(小計)			29	28	28	0		
3						0		
						0		
						0		
						0		
						0		
(小計)			0	0	0	0		
所要時間 (計)			122	117	117	0		

(留意事項)

- 1 事業を細分化した業務名は、事務事業を構成する業務ごとに細分化し、その業務名を記載すること。
- 2 具体的な業務プロセス(手順)は、できる限り多くのプロセスを記載すること。
- 3 業務の時期は、業務のフローがわかるように具体的な業務プロセスごとに記載すること。(毎月、四半期ごとの業務等は、その1サイクルの期間を記載すること。)
- 4 各年度の所要時間(計)は、事務事業自主点検シートの「事業の目標、実施状況等」の「所要時間計」と一致すること。
- 5 具体的業務の見直しの内容は、わかりやすく簡潔に記載すること。(県民から見て分かりやすい表現とすること。)なお、見直しがない場合は、「なし」と記載すること。
- 6 見直しに至った理由または見直しなしの理由は、詳細に記載すること。(具体的な業務プロセスごと、または細分化した業務ごとに記載すること。)
- 7 適宜、業務内容に合わせ、行を加除して記載すること。(複数ページ可)